

安全保障と米軍基地(Ⅲ)

(1) アジア東部地図と軍事基地

日本の安全保障上、世界地図より米軍基地の立地場所を検証すると、結論として大阪周辺の日本海がいいのではないのでしょうか。つまり、アジア東部地図(以下に添付)のブルーの国は米国同盟国であり、仮想敵国対象外となり、しかも、日米同盟を基準とすれば、米軍が駐留しているので、広義の防衛網と言っても過言ではありません。当然、逆にブルーの国からしても、日米同盟により日本も広義の防衛網と言うことでしょう。

次に、オレンジの国もブルーの国との緊張を前提にすれば、日本に対しての軍事戦略を考えると、ブルー国の米軍基地を無視することは出来ません。

仮想シュミレーションによれば、対オレンジに対して、日本本土防衛基地の優先順位は、第一にブルーの米軍基地、第二として、大阪周辺日本海米軍基地(予定)、最後に沖縄米軍基地と考えます。何故ならば、距離的に考えれば、グリーン基地より、大阪周辺基地の方が緊急出動及び迎撃ミサイル発射に於いても効率的と考えます。

米軍との連携による迎撃ミサイルの配備や緊急出動できる空軍基地は大阪周辺の日本海が効率的と考えます。

特に、日本が戦場となる事を前提とした、後方支援としてのグリーン基地ではなく、日本本土の基地を充実させて、本土への軍事進攻やミサイル攻撃を阻止出来る防衛戦略が重要と考えます。つまり、米国本土防衛システムに準ずる、日本本土防衛が重要と考えます。

現実には勝者のない戦争、つまり双方にとって利益のない軍事進攻であることは明白ですので、これらは仮想シュミレーションにすぎません。 アジア東部地図(以下に添付)



原子力発電所への攻撃を受け、日本本土が被害を被ったので、グリーン基地からの援軍とか、国連軍の出動と言う仮想シュミレーションではなく、本土攻撃を未然に阻止することが、防衛であると考えます。